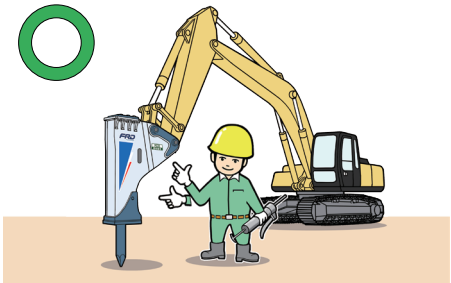
油圧ブレーカをうまく使うポイント

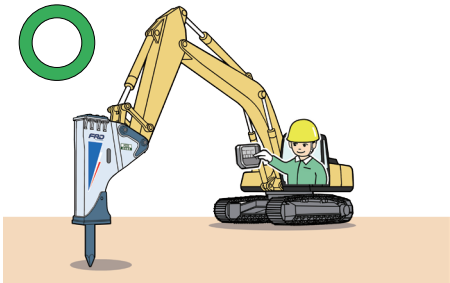
油圧ブレーカの運転は、安全マニュアル・取扱説明書を読んで十分理解してからにしてください。

■ 始業点検は必ず行いましょう



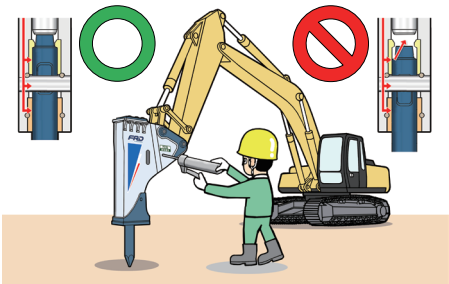
ボルトやナット、プラグ類にゆるみや脱落はありませんか？油圧ホースから油漏れはありませんか？作業を始める前に確認を。

■ ブレーカモードに設定を



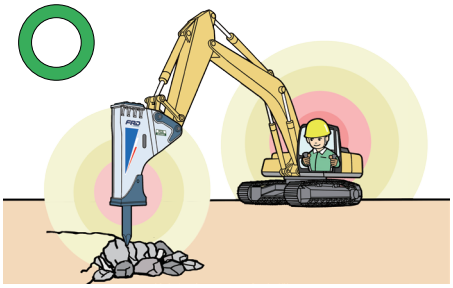
油圧ブレーカでの作業に最適な、油圧ブレーカモードに設定してください。

■ グリース給脂は確実に



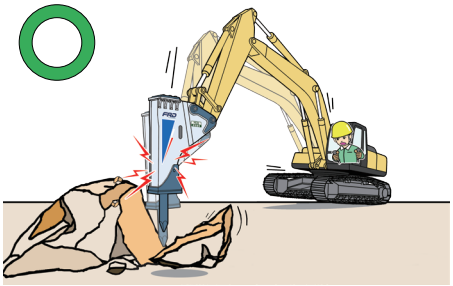
作業中は、2～3時間ごとにグリースを給脂してください。グリース給脂はロッドを押付けた状態で行います。

■ 暖機運転を行う



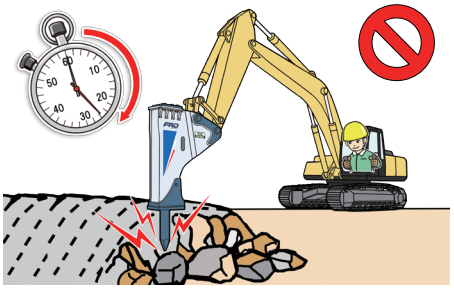
始業時には、5分程度ブレーカのならし運転を行い作動油を温めてください。いつもと違った様子はないか、確認してください。

■ 割れたらすぐにストップ



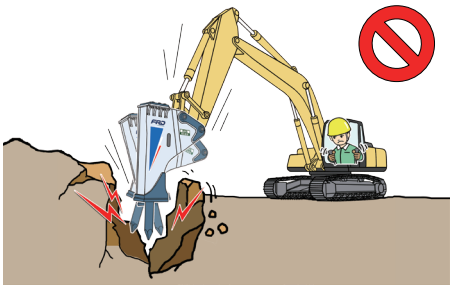
破砕したらすぐに打撃をストップします。空打ちが多すぎると、ブレーカの各部を傷めます。

■ 30秒以上の連続打撃はしない



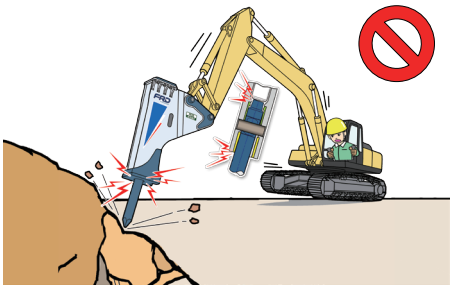
連続打撃は、ロッドの異常摩耗や油温を上昇させる原因となります。割れないときは、ロッドを当てる位置を変えてください。

■ ロッドをこじりながら打たない



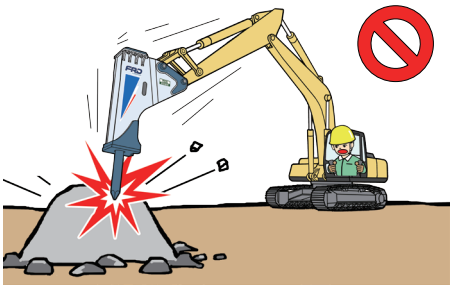
ロッドをこじりながらの破砕作業は、ロッドが折れたり油圧ショベルを壊す原因になります。

■ 斜め打ちはしない



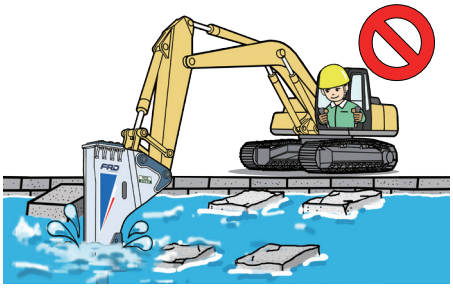
斜め打ちは、ロッドのすべりによるロッドのかじりやロッドを折損させる原因になります。

■ 破砕物に打ちつけないで



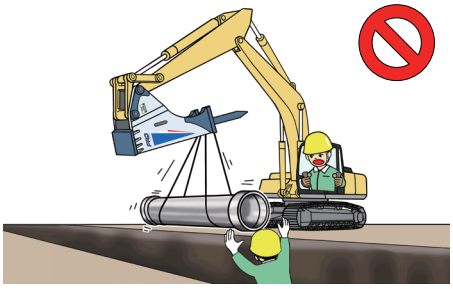
ブレーカや油圧ショベルを損傷させるだけでなく、破砕物を飛散させるなど思わぬ事故を引き起こす恐れもあります。

■ 水や泥の中の作業はダメ



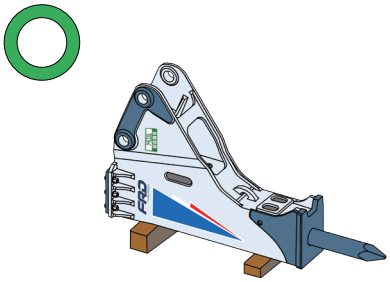
ブレーカ本体に水や泥が入り、ブレーカだけでなく油圧ショベルの重大な故障にもつながります。

■ クレーン作業は禁止



ブレーカでのクレーン作業は禁止されています。クレーン作業（荷の吊上げ）を行うときは、専用の機械を使用してください。

■ 保管時はロッド側を低く



ブレーカを保管するときは、雨水による錆からピストンやシールを保護するため、ロッド側を低くして保管します。